

郷の集い

行学校A
 小郷P
 編集責任者 吉井秀夫
 印刷 久野印刷(株)

あたたかい家庭づくりへの工夫

齊藤 美喜尾

今年の秋はさわやかな晴天に恵まれ、校下の皆様も無事お仕事も進み、まことに結構なことでございます。百姓で苦勞をした事のない私が、こんな事を書くに叱られそうですが、ここ

の事が思いのままに片づくからです。用事があれば電話をかけ、子供は区の中のお使いもあまりしない様子です。お使いをすれば自然に礼儀が身につく心のかよう会話がなされる筈です。

先日も当区で若夫婦が一夜懇親会を持つとあって会場は区民館、手料理の安上がり、私も大賛成をしたのですが、若夫婦が帰宅して云うには「カラオケブームもいいけれど、会話が少なくて淋しかったわ。」と……

は、できるだけ家を空けないよう努めています。どうしても空ける時は飯台の上にも「お帰り○○○○。」と留守をするわけのメモを残しておきます。家の外から大きな声で「只今!!」私も負けずに大声で「お帰り。」と返してやります。それから学校での一日の様子を大まかに話してくれます。私は「ハイ、ハイ」と聞いてやります。くわしい事は夜家中の者が揃った上でする事にしています。

私には、たまに旅行をします。みやげは買わない主義ですが時にはささやかな品を買って帰ります。先ず神佛にお供えしてから家族中

で分けます。先日も末っ子がこの事を日記にこう書きました。「おばちゃんが旅行から帰って来た。お土産はあったけれど、それよりおばちゃんが帰って来た事がとっても嬉しかったです。」この事によって私の「お帰り。」の戦法はよく効いていると自負しています。

老人にもこんな大切な責任ある仕事ができるのです。子供達と過ごす時間の多い私達老人には、子供の礼儀作法もよく目につきます。神佛のお参り、受け答えの仕方、物や人への感謝など学校と家庭とのつながりある指導が子供を豊かにします。子供が若し忘れていたら命令ではなく「あつ今何か忘れてない？」と言葉をかけてやります。

今年のおもかげは無く機械化によりアツという間に農作業が片づくという印象だけが残ります。私がかつて勤めていた頃は九月の始めから霰の降る頃まで、朝な夕な家族ぐるみの取り入れの様子を見るたびにいつも頭の下がる思いをいたしました。

当、宮前区でもここ十五六年の間にお嫁さんが次々来られました。今新郷校下におられるお母さん方です。どなたも明るくて感じのよい面をもっており、揃って乗用車を持ち、いつも美しくしています。子供には苦勞をさせず、それは人の力を借りなくても、ほとんど

は時と場を得てなされる会話であろうと思います。私の家でも、やはり若い者と私との間に考え方の違いがあります。そんな時は夕食後のひととき、よく話し合いをします。(時には子供も交えて)こんな姿を見れば子供達も「みんな僕等の事を心配しているんだな。」と、何かを感じとっ

「あつぞうだありがとう。」
 「あ、忘れたおまいり。」
 という具合に命令調ではなく、あたたかい言葉をかけて上げてはどうでしょう。

死めのは、とてもつらいだろう。それなのに、井村医師は、落ち着いて、なくなっていく。どんなにえらい医師でも、やはり、死ぬのは、こわいだろう。いやだろう。井村医師は、すばらしい人だ。

私死めと分かたら、自分のこのばかり思っていて、他の人のことは考えずに、めいわくをかけるだろう。しかし、井村医師は、切断了足もかいがなく、ガンがはいに転移して、もう助からないと知った時とつさに思ったことは、残される妻と飛鳥のことだった。そして、自分がこわいから、いやだから死にたくないと思つたのではなく、妻と飛鳥のために死にたくない。生きたいと思つた。これほど、妻と子供のことを想う父親がいるだろうか。

自分のために生きたいとは思わず、妻と飛鳥のために生きたいと思う井村医師は、すばらしい人だと思つた。ちょっとでも気にいらぬことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

勝手気ままな意見を申し上げましたが、今の家庭に欠けているもの一つに今述べたような事があるのではないかと思われてなりません。

うことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

うことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

うことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

うことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

うことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

うことがあつたら、すぐに「死」を考へる人達が、井村医師は、とても悲しいと思つただろう。その人達は「死」のおそろしさを知らないから、簡単に「死のう」と言

研修旅行 りっぱすぎて ため息が

山崎 新右衛門

去る六月三十日快晴に恵まれ、私は新郷小学校 P T A の研修会に初めて参加した。この P T A 年中行事の研修会は、先進優良小学校等の見学と会員相互の親睦を図るため一台のマイクロバスに同乗して一日行程を楽しく過ごさせて頂きました。

この見学校として本年度は、丹生郡織田町立萩野小学校を選択したので、その模様を特に記入したい。同校は児童数五九人の小規模校で一クラス十人前後の教室で、職員は校長含めて十一人である。又この登校区域は一八三戸の閑係世帯から児童が送られ、位置的には近くに萩野保育園、地区父民館と隣接グラウンド

(二〇〇m トラックで、学校グラウンド兼ねる) があり全くこの地域の社会、教育の諸施設が集ったところに新築学校があった。

案内して頂いた教頭先生の説明によれば、町長、町議会共に立派な学校を建設するようにと色々工夫され五四年五月から山と谷を開発して九カ月で学校敷地二万㎡(約二町歩)が造成さ

れた。校舎は五四年七月着工され九カ月で鉄筋コンクリート造三階建延一、八四一㎡(五五七坪)が出来、

屋内体育館の方は、翌年五月着工され七カ月で鉄骨鉄筋コンクリート造平屋建延八二〇㎡(二四三坪)が建設された。更にグラウンド整備は、五五年四月着工され三カ月で二、〇〇〇㎡(一町二反歩)が立派に整備された。この敷地造成から校舎、屋内体育館、グラウンド整備、付帯工事の総事業費は四億四千万円であり、愛校心の強いこの地域住民の多年の要望がここになつたわけである。

まず校舎と体育館の内容は、一階に校長室、応接室、職員室、会議室、保健室、放送室、玄関、家庭科実習室、湯沸室、給食車プラトホーム、渡り廊下で屋内体育館に行けるようになっていた。体育館の方は、縦二八m(一五間半)×巾二十m(一一間)の広場、ステージ、更衣室、洗面所、WC、器具室、地域住民用玄関、放送室等があった。校舎の二階は学年室、図書室、理科室、音楽室、資料室等で、三階には学年室、視聴覚室、家庭室、児童会

室、図工室等があった。屋上(四階)は広場であった。学年室は縦八m×横七m、廊下二mの小さい部屋である。然し乍ブールはなかった。これだけの立派な施設を五四年五年の二カ年間で敷地造成から落成まで完了したことは、関係者の並々な努力に大変敬意を表しなければならぬと思う。現地を訪れたものは異口同音に驚嘆し、新郷小学校新築の一日も早からんことを切望していた。最近竣工した学校施設は何らか特徴のあるものを新築するよう、建築構造的に又その内容的に整備されている。

この萩野小学校においても児童数的には小規模校なれども、建築構造的或又、施設の各配置整備の様態は全体的に見て大規模校施設をしのぐものであると思われた。

本校の場合の特徴は、屋内体育館とグラウンドは社会施設向けの規模で大変立派なものである。学校側は学

校施設として利用する兼用型で実際的には利用上の問題が残らないよう工夫が必要である。これからは萩野地区の伝統を生かした立派な児童が巣立って行くこと

を願って止まない。更には社会施設としてより有効な活用が望まれる。新郷小学校の場合も特徴を何に求めるか?検討して頂き、後悔のない学校施設を建設して頂きたいと思う。



萩野小正面玄関前にて 56年6月30日



三上 芳江

六月三十日、新郷小学校建設に当って、丹生郡にあります生徒七十数名の萩野小学校を視察してきました。私は初めての視察で、生徒数が少ないとの事であり期待はしていなかったのですが、行って見てびっくりしました。

学校は山を崩して平地にしたらしく高台にあり、みはらしがよく、後は山で新しい三階建の校舎、体育館

広々とした外運はすばらしいものでした。

校内を見学、新しいので校内のどこをみても明るく感じ、生徒数が少ないにもかかわらずそうじが行きとどいておりました。中でも放送室、音楽室、体育館等は得に設備が整っており、うらやましいかぎりでした。新郷小学校も早く建設に取りかかってほしいと思います。

昨年より父兄の参加者が少なかつたようですが、天候もよく、学校の参考にもなり楽しい一日でした。

吉井 秀夫

私は伝統ある新郷小学校の学級委員長になり、会員皆様の役に立つかどうか不安でなりません、いっしょうけんめい努力していきたいと思えます。

又、私の長女が新郷小学校に入学して以来、初めて研修旅行に参加させて頂きました。本年度は丹生郡織田町立萩野小学校を訪問致しまして、新郷小学校の児童数や先生方の人数もほぼ以ていますが、校舎がとも立派なコンクリート建ての学校で、設備の整った新しい小学校でした。新郷小学校も一日も早く立派な学校が建築されます様に望みます。

運動会

走る。ころろ。泣く。笑う。 ああ、人生レース

吉江 真由美

少ない生徒でさみしいんだらうなあ。正直いって、そんな気持ちだったのです。いや、いや、楽しくあつた。

「フレフレ赤」「フレフレ白」とグラウンドいっぱい子どもたちの声が鳴り響いている。九月十三日、秋晴れのもとで、初めて参加する小学校の運動会。「がんばれ!!がんばれ!!わが子よ。」家中みんな応援。その期待に応えようと、一生懸命走って一等。「よくがんばったね。」と昼食時にお弁当を広げながら誉めてやると、子どももここに顔です。子どもたちといっしょに走ったり踊ったり。とても楽しい一日でした。少ない児童数でも、みんな力を合わせてこの大きな学校にも負けないりっぱな運動会でした。でももう少しグラウンドが大きかったら、子どもたちももっとのびのびと走れるだろうにな……と思いました。

林 明美

友達同志で赤白に分かれて勝ち負けを競い、親も子供もいっしょにとんだりはねたりして喜び。笑いあひときには残念がったり我が校ならではのムードを漂わせました。また昼食時には青空いっばいに鳴りひびく高学年による鼓隊ドリル、若人が顔負けするほどの老人会によるすばらしいゲートボールも催され、そのひとときに心を打たれました。そして最後に例年のごとく母親と子供による踊りが行われ運動会のしめくりとなり、楽しい秋の一日を過ごすことができました。うれしく思います。

二年 たかまさ ゆう子
とうとう、うんどう会になりました。わたしは「ドキドキッ。」となりました。二年生のはしるきょううになりました。わたしは、むねの中で、いってました。「わたし、一とうになれるかなあ。」
「わたいちゃんのとちの、のりちゃんか、こういってました。」
「がんばねのっ。」
「わたい、手を上げてました。」

優良学校を
視察し望むこと
矢尾 昭三
児童玄関、職員玄関、校舎の前庭、中庭、それに通ずる各段よりの非常階段との関連を工夫し、児童達の安全と、校外外いたるところに豊かな情操を育てるための工夫をこらし、すばらしい学校環境をかもし出していたのが滋賀県米原町息

長小学校でした。全天候型で、雨上がりのグラウンドにすぐ飛び出て運動が出来るよう、グラウンド造成上の施設、設計上の配慮と工夫がなされ、児童達が太陽の光をいっばい、のびのびと活動し、ランチルームで全校一せいに楽しく給食出来るのが大飯町本郷小学校でした。体育館、プール、グラウンド、便所、更衣室、体育器具室等の連携をたくみに工夫し、効率的に使用する者の側に立って造られていたのが愛知県の手手小学校でした。新しい新郷小学校は、これら学校の良い点ばかりを取り入れた、百年の大計に立ったくいのない学校を造ってほしいものです。



うと思ってきました。つぎは、五年生がはりました。わたしは、「まけるな、がんばねッ。」といって手をふりました。わたしは、そういつたらみんなが、じろつと見ました。わたしは、「はづかしいなあ。」と思いました。まだまだありました。いえにかえってゆつくりと、休みました。つかれてふらふらになりました。

息子のよき故里に

五十嵐 満里子

「男子八人、女子五人、全部で十三人の級ですね。」思わず片わらの主人と顔を見合わせました。転校手続きの為、町役場の教育委員会で「それで何級あるのでしょうか、四年生は。」と質問した私共に返ってきた答えがこの言葉だったのです。戦後のベビーブームの

中へ引きめき合って学業をおえた母親の私と、これ又福井市内のマンモス校で千何百人もの生徒の中で生活してきた息子といくら頭の中へ想像しても十三人の級は見当がつきはせんでした。しかし運動会を感じた小じまんまりとした楽しさ、暖かさ、何とも言えない味わい

のあることを知り、嬉しく思っております。黄金に波打つ田をみながらの通学、成人しても懐しい景色として息子の脳裏に焼き付いている事だろうと思えます。十月一日の転校後初めての衣替えの日「本当にこれ皆と一緒？」と何度も念を押しながら金ポタシをはめた息子の様子……。ここが彼のよき故里になつてほしいと願う毎日です。

うと思ってきました。つぎは、五年生がはりました。わたしは、「まけるな、がんばねッ。」といって手をふりました。わたしは、そういつたらみんなが、じろつと見ました。わたしは、「はづかしいなあ。」と思いました。まだまだありました。いえにかえってゆつくりと、休みました。つかれてふらふらになりました。

うと思ってきました。つぎは、五年生がはりました。わたしは、「まけるな、がんばねッ。」といって手をふりました。わたしは、そういつたらみんなが、じろつと見ました。わたしは、「はづかしいなあ。」と思いました。まだまだありました。いえにかえってゆつくりと、休みました。つかれてふらふらになりました。

「フレフレ赤」「フレフレ白」とグラウンドいっぱい子どもたちの声が鳴り響いている。九月十三日、秋晴れのもとで、初めて参加する小学校の運動会。「がんばれ!!がんばれ!!わが子よ。」家中みんな応援。その期待に応えようと、一生懸命走って一等。「よくがんばったね。」と昼食時にお弁当を広げながら誉めてやると、子どももここに顔です。子どもたちといっしょに走ったり踊ったり。とても楽しい一日でした。少ない児童数でも、みんな力を合わせてこの大きな学校にも負けないりっぱな運動会でした。でももう少しグラウンドが大きかったら、子どもたちももっとのびのびと走れるだろうにな……と思いました。

「男子八人、女子五人、全部で十三人の級ですね。」思わず片わらの主人と顔を見合わせました。転校手続きの為、町役場の教育委員会で「それで何級あるのでしょうか、四年生は。」と質問した私共に返ってきた答えがこの言葉だったのです。戦後のベビーブームの

中へ引きめき合って学業をおえた母親の私と、これ又福井市内のマンモス校で千何百人もの生徒の中で生活してきた息子といくら頭の中へ想像しても十三人の級は見当がつきはせんでした。しかし運動会を感じた小じまんまりとした楽しさ、暖かさ、何とも言えない味わい

のあることを知り、嬉しく思っております。黄金に波打つ田をみながらの通学、成人しても懐しい景色として息子の脳裏に焼き付いている事だろうと思えます。十月一日の転校後初めての衣替えの日「本当にこれ皆と一緒？」と何度も念を押しながら金ポタシをはめた息子の様子……。ここが彼のよき故里になつてほしいと願う毎日です。

うと思ってきました。つぎは、五年生がはりました。わたしは、「まけるな、がんばねッ。」といって手をふりました。わたしは、そういつたらみんなが、じろつと見ました。わたしは、「はづかしいなあ。」と思いました。まだまだありました。いえにかえってゆつくりと、休みました。つかれてふらふらになりました。

うと思ってきました。つぎは、五年生がはりました。わたしは、「まけるな、がんばねッ。」といって手をふりました。わたしは、そういつたらみんなが、じろつと見ました。わたしは、「はづかしいなあ。」と思いました。まだまだありました。いえにかえってゆつくりと、休みました。つかれてふらふらになりました。